

年度評価シート（令和6年度）

課名 文化政策課

施設の名称	静岡市清水文化会館	指定管理者名	清水文化事業サポート株式会社	
1 履行状況				
(1) 目標達成				
ア 施設利用者数				
目標値500,000人				
実績値375,700人（前年度412,659人）				
達成率75.1%（前年度比91.0%）				
【参考】令和元年度（コロナ前）				
目標値430,000人、実績値439,484人、達成率102.2%				
イ 施設利用率				
目標値 大ホール、小ホール、ギャラリー利用率70%				
実績値 76.3%（前年度75.1%）				
達成率 109.0%（前年度比107.3%）				
【参考】令和元年度（コロナ前）				
目標値 65.0%、実績値 83.5%、達成率 128.5%				
	R6利用者数	R6利用率	R5利用者数	R5用率
大ホール	159,579人	87.7%	135,613人	81.2%
小ホール	28,859人	66.8%	25,920人	65.9%
ギャラリー	56,077人	74.6%	91,803人	77.7%
リハーサル室	30,919人	73.8%	64,432人	75.7%
練習室1	2,691人	62.3%	2,274人	53.6%
練習室2	2,235人	48.8%	1,947人	45.1%
その他	95,340人	—	90,670人	—
合計	375,700人	—	412,659人	—
(2) 人員配置状況				
維持管理・運営業務計画書のとおり要員配置をし、施設の稼働状況や運営状況に合わせて、都度対応を行った。				
勤務シフトについてはA勤務とB勤務の2交代制とし、開館時間中は業務責任者以上の役職者が必ず1名以上在席し、受付や問い合わせに対応できるよう等、開館状況に対応できるように勤務シフトを設定することができた。				
(3) 業務実施状況				
令和6年度は、主催事業を14回、共催事業を5回実施し、事業計画に則り安定的に事業を展開することができた。				

① 高次高質な芸術文化の鑑賞機会の提供

媒体社との共催による全国レベルの事業を誘致、開催し発信力の高い事業を実施した。質の高い事業の鑑賞機会として、明日海りお、別所哲也の凱旋公演となった「ミュージカル9 to 5」、初めて松竹を招致した「松竹大歌舞伎」を開催。文化庁子供文化芸術活動支援事業に採択され、300名のお子様を無料ご招待した。「劇団四季こころの劇場」では、静岡市教育センターと共催で静岡市内の小学6年生の招待公演として実施し、子どもたちに舞台芸術に触れる機会を提供した。

このような取組は、本施設の運營業務に係る要求水準書のサービスの基本方針である「高次高質な芸術文化の鑑賞機会を市民に提供する」という方針に合致する取組であり評価できる。

② 多彩な文化の継承と独自文化の創造

平成24年度から継続事業として実施している「清水にぎわい落語まつり」では、商店街等と連携して、地元出身の落語家春風亭昇太師匠の声掛けにより人気の落語家を招き、延べ3日間で2,081人の方が来場した。

清水区出身の落語家、春風亭昇太氏をはじめとした人気の落語家3日間にわたり清水地域の各所で落語会を開催することで、地域連携及び、回遊性を持たせており、毎年多くの来場者が期待できる一大イベントに定着しつつあり、清水のまちなかでの落語文化が芽生えつつある。

このような取組は、要求水準書の基本的な考え方である「多彩な文化の継承と独自文化の創造」に合致する取組であり評価できる。

③ 清水都心における文化交流の促進

一般財団法人地域創造が実施する「地域の文化・芸術活動助成事業」として平成28年度から平成30年度まで認定されていた「マリナート・ウインズ“響きのある街”プロジェクト」については、本施設が文化交流・発信の中心地となり、地域とホールの特性を活かしながら音楽を通じた新たな交流を促進するための事業として、継続して取り組んでいる。

中・高校吹奏楽部のレベルアップを図るコンクール形式の事業である「マリナートBRASSカップ in Shizuoka City」と並び、「須川展也×マリナート・ウインズ」は、響きのある街プロジェクトとして、サクソフォン奏者須川展也氏を迎え、地域の潜在的な吹奏楽愛好家の掘り起こしを通じ音楽を楽しむ場を提供した。

また、ロビーコンサートや静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・ると共催で、コンサートの楽しみ方講座を実施し、楽器当てクイズや質問コーナーなどを通じて吹奏楽の魅力を伝える機会となった。

このような取組は、要求水準書の基本的な考え方である「清水都心における文化交流の促進」に合致する取組であり評価できる。

<主な主催事業>

事業名	来場者数	目標値	達成率
静岡・室内 楽フェスティバル 2024	1,079人	800人	134.8%
石田泰尚 ヴァイオリン・リサイタル			

シルバニア村の美しい時間	16,364人	15,000人	109.0%
清水にぎわい落語まつり	2,081人	2,000人	104.0%
神田伯山新春連続読み「清水次郎長伝」2025	1,324人	1,000人	132.4%
反田恭平JapanNationalOrchestra2025 冬ツアー	1,415人	1,000人	141.5%

(4) 市との連携

清水駅東地区文化施設整備及び維持管理・運営事業特定事業契約書第60条で定められているとおり、月報については業務を行った月の翌月の10日までに、半期報告書については当該半期の最終月の翌月10日までに、年度報告書については翌年度の4月30日までに作成し、市に提出している。

また、定例会を年3回、関係者協議会を年1回実施しており、維持管理業務等の状況報告、課題事項の共有や解決策の検討を行っている。

(5) 危機管理

展示物を安全に使用していただくため、開館時の全展示物の稼働テスト及び閉館時の状況把握、施設内の巡回等、建築物や各種設備について異常がないか確認をしている。

また、緊急時等における来館者の避難誘導については、指定管理者である(公財)静岡市文化振興財団が定めている「震災等対策計画」等により非常時に備え、職員研修や避難訓練等を通じて、起こりうるさまざまなリスクに対し万全な体制を確保しており、緊急時・非常時には適切に避難誘導できる体制が整っている。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民(利用者)からの意見・要望の内容とその対応状況の評価(クレーム対応 等)

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

利用者からの意見・要望については受付窓口、電話、意見箱、利用者アンケートの他、マリナートHPにも問い合わせフォームを設けて対応している。利用者アンケートでは、施設、設備、立地、応対すべてにおいて概ね好評価を得ている。

〈意見・要望〉

・利用者からの意見

- ① ガラスが綺麗すぎてぶつかりそう
- ② 電波が届かないため、Wi-Fiがほしい。

・対 応

- ① 衝突防止シールを貼り、ガラスの前にはベンチ及びチラシラックを設置することで、来場者の衝突を防いだ。
- ② 貸出用ルーターの案内を積極的に行うこととした。

【検証・分析等】

利用者からの意見・要望に対し概ね適切な対応がとられており、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

今後の施設運営へ反映させるため、施設利用者を対象にアンケート調査を実施。

【調査結果】

(1) 利用者満足度調査

主催事業の内容に対する満足度調査を実施した結果、全事業を通じた「良い」以上の回答率は91.3%（前年度87.2%）であり、概ね好評価を得ることが出来た。

(2) 市民アンケート

公益財団法人静岡市文化振興財団が市内文化施設などで実施した市民アンケート結果は以下のとおりである。

施設認知度 73.4%（前年度71.6%）

利用度 56.6%（前年度52.7%）

【検証・分析等】

主催事業における公演内容の満足度は91.3%（前年度87.2%）であり、すべての項目が高い水準であることから、良好な評価を得ている。また、認知度及び利用度についても前年度よりも上昇している。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

P F I 事業により維持管理・運營業務を実施しているため、詳細な収支情報は把握しきれてはいないが、財務モニタリングにおいては、令和5年度の財務状況が良好であることが確認できている。

利用料金収入状況は下記のとおり。

	収入	前年比（円）	前年比
令和5年度	68,595,010円		
令和6年度	79,592,330円	10,997,320円	116.0%

【検証・分析等】

利用者数は減少したものの、利用料金収入は増加しており、財務モニタリングについても経営状況、財務状況は良好な状況であることから、経理状況は良好である。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

【検証・分析等】

開館（平成24年8月1日）13年目、年間通じての運営は12年目となったが、維持管理及び運営は、要求水準書、契約書及び事業計画書等の内容に基づき適切に実施された。

施設の維持管理面については、利用者が安全かつ快適に利用できるよう適切に実施され、市との情報共有も円滑にできている。維持管理を担う主務業者以外にも関係構成員間の連携により順調に対処されており、高い危機意識のもとで施設を運営している点は十分評価できる。

運営面について、ホール・ギャラリーの利用率がコロナ禍以前の数値に戻り、順調な施設運営がなされている。主催事業についても、様々な分野の事業を積極的に実施し、効果的な広報や地域との連携がなされている。

また、マリナートを清水の中心市街地活性化の1つの拠点とすべく、毎月中心市街地情報交換会を開催し、地元商店街関係者や経済団体関係者、市役所他部署と各々のイベント情報などを交換し、清水の賑わい創出についての課題を共有している。このことは、運營業務仕様書の運営基本方針である「地域文化の振興と賑わいを創出する文化拠点」を体現する取組であり、大変評価できる。

令和4年度から、第3ターム「基盤発展」(令和4年～8年度)に移行しており、「年間来館者数500,000人」、「大ホール、小ホール利用率70%、ギャラリー利用率70%」が目標値となっているため、今後もリピーターを増やす取組にも期待したい。

今後も市民ニーズを把握しながら、清水区のまちづくり関係者と連携した取組を行い、多くの市民に親しまれる施設となることを期待する。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。